

ル 2
3038
31



ル 4
 3038
 3



地球全圖畧説下

亞細亞洲の説

春波樓著

北の洲（北の洲）の海（海）より東の東海（東海）の果（果）も南の南極（南極）海（海）不
 ありぬの歐羅巴洲（歐羅巴洲）及び亞弗利加洲（亞弗利加洲）の東の東極（東極）極（極）
 地の地はありぬ文物（文物）礼樂（礼樂）の盛（盛）るる人物（人物）の多（多）き其の中心（中心）ありぬ
 諸（諸）まゝなる新（新）中（中）本朝（本朝）支那（支那）と二帝（二帝）と稱（稱）して其の境（境）ありぬ
 旅（旅）と稱（稱）するふゆらうとて然（然）もどもその遠境（遠境）ありぬ
 本朝（本朝）の人（人）受（受）て伝（伝）せざるものあり今も二三と奉（奉）て童蒙（童蒙）不徳（不徳）む

地球下

喀爾喀との新い方ふあり一大邦あり人民極めて多し玉王
 あり支那に属せり然る小噠喇喇との土地に蒙古に連なり
 去人ことと瀚海との小条色二百五十里南ふ十里のり大漠
 漢として一帯の沙地あり五穀草木と生ぜざれば乾燥
 あり小流て百川の水を所めて竭るとぞその絹の所僅小
 濕る衣草木とるるのこりてをらと牧畜場と名けて牛馬
 及び羊等以畜ふ所とん然る小表秋二分の時小あつて大風
 起るとれば大地の沙を吹揚吹寄せし一秋の月は大なる心と
 して忽地ふして吹散し隨て流き坑となる人これ小遇とれハ

こゝに埋まれて死をとり入り元より新い方ふあり牛馬の
 養の燥けりと多く焚とのり
 新增白臘とのり人の北極ふとくして魯西亞小層とて多き玉
 ありは財を流きして文旅冬の日目がやどい毎小勝秋の如く時
 小の方ふ光をとりてるこり人の光その土地とんて夏月
 ころのありとのりとも雪の氷堆のこりて受ふ地とんて一
 年のうち七分の秋ありて僅三分をたりとのりかす新い方ふ
 あひぬまは一生とて中必氣候和暖の土地ふはれらるる殊小
 洪福をとり入る

仏にたるとは仏教とて俗に傳人交死をまはすその屍を焼きてその火
 中へ飛入て殉死せんとて是の情深きうまに頑固なるう然れども
 あの風を來漸くお止むるとかん去地へ肥て四時山林小緑をあり五
 穀一年小あ及收む固て食よまきとて一とて産金銀宝衣及び
 種々の獸を珠珊瑚の外草木の類多しおよとよといふるべ
 あり麻辣襪爾といふハデスカアテンの屬はよく玉ありとよ世の
 弊習あり上下仏教とて俗に然るふ玉玉その位とた子小儀とて
 なく却て姉妹の子小儀とされとて姉妹とて老定まりたるま
 弘教と奉まる俗と森所と同なりとて産む所の子ありとて急小

世の玉玉その母あるとと知て父とてあすとて近百年來
 洋人多くふ來りて通販するふよりその風漸くお止むといふ
 振はる小儀とてありの玉玉といひなかくとて子とて猶て玉の姉妹の多儀又
 由知まはる者玉玉とて傳まるとも種々年々とてさきより一ありと
 その小小加得山といふありあり大蛇と産まをささこ又余小
 して人畜と食ふ人砲矢小巧といふてとてとて野肉と焼く
 食ふえたるを味ありといふ
 満刺加といふの教玉小なるかハ暹羅あは隸一うが近來
 自立の玉あり然れどもその地半ハ和菓小儀せらるるといふ
 玉印度地有ふありて老獲衣とて男女とも小裸所あり

その熱小墟あつちいぎるあつちいとまらぬ水あつちい入あつちいとて其の暑と凌ぐとを婦人の終
 小帛布ちいふの類と云ふ脛へその下と凌ぎて之風依いて晒あと小吳あ
 小人あり。カルラク族ぞくといひてその群ぐん本島の人と別べつ之の人を身み辨べん
 小ちいく必いず必いずて海うみ一いつ層いの級い日ひは海うみで航かうの法ほう方かたを固こめて海うみ人
 とれと交易かうぎと云ふんとすまがたは佛あつちい勝あつちいありひの秋あき中人あつちい定あつちいの後のちと
 以もてまらぬ他西洋せいやうの徳とく別べつより亞細亞あしや徳とく員えんは航かうする第一だいいちの港かた
 なるまがたの互市ごしの盛さかなるとて由よし方かた徳とく員えんの冠かんなりとぞかく炎えん
 熱あつちい志し一いつまに地ちなれど日ひごと雨あめ降あるなり一いつまに於おて徳とく員えんの人
 のさう凌あぎの情あをゆるといふ

東京とうきやう 安南あなんの商人あなんの支那しな小屠せうと一いつ方かた近來きんらい独どく立りつとて白しろ布ふと
 移うつるよりともまて熱あつちい志し一いつまに一いつ方かたとびぬ敷しきと収とむといふ家いへ小食せうじき
 之の一いつまに方かた物ものを焼やくといふともその南なん洋やう漢わん小島せうことて海うみ秋あき
 ともまて必いず必いずの懸か風ふうあり一いつまに祭まつり一いつまに小島せうこなれど野の火ひを
 一いつ掃ほうとて地ち小屠せうとなるりのま吹ふ拂はひ何なに方かたともありてやむは猛まう地ち
 長津波ちやうしんぱの於おひも揚あぐりまに二に種しゆの白しろ旗はたと産うま長ちやう三さん寸すん余よ
 ありて船ふね底ぞこありひの船ふねの柱はしらと柱はしら之の大おほ小人民せうじんの害がいとるやうまに大
 端はた端はたと産うま人ひと捕とらへてその肉にくと喰くふ小島せうこ民たみありとも必いず必いず人ひと好このんで
 大おほるの肉にくと喰くふとて風ふう俗じやく天てんと支し那な小屠せうとなりて穩おんとて実じつ



東の元 せきしや
 東京の人日蝕を
 みるを王公よりあつて
 白重未て見ざる人なき
 得る防ぐべしと驚き
 鼓鐘をうつて
 知らせたり
 といふ

九月五日

浴風の涼きありて衣人凌ぐことゆうは清の地産の内挂枝を
 最上とて敷多あり左不桂島の名と負うその芳香清と敷十
 里不聞ふとらんまご一種の奇樹ありてタアルバと号くその葉は
 大なる二十人と産まといはるの周圍悲像べしその清い草
 葉の風俗となりぬれど性古きを愛ふべきの依りあり子孫不
 新婦と逢ふまは婚姻の教その又う若まづかの新婦と抱て臥とらん
 ちとて宣規とらんらん

蕪門答刺といふ大玉ありて十七州に頒てりま作を異々
 春秋二分あり太陽その頂上と環る左不終日人の教もは

左不生涯書おと入すことらんらん一種の舞風といふは婦人舞
 の儀きことと入左不女子と産とまの初生よりその舞と塵土掃め
 終不廻るなるまの終世の英人と稱すとて

カロリニセ 日本徳属島の島ありてをせそのと字と伊斯把
 泥亞不候せ其その道まふ五の島ありてまらふ島は屬はとを
 そのをまふ不婦人あり一玉男子あり冬寒のるをまふより男
 ると逢ふて金飲一と産むその子女もたれは島不強め男子
 可れは外島人送るといふ古よりいふ女僕を島とまふや
 樂徳といふは自立の首長ありしふ今の都兒格不合らまて

小中洲衰ありなりその港は小むく巨洞人の之像ありさ
 七年天身の内空なるふより大石敷多と積ひきて傾き倒るると
 防々その初めカルレスといふ老老と企て力を用ひて十一年ありて
 のまご功と身死を交りラセスといふ老老と嗣で令く救統を
 その後六十年と経て地底の穴小倒る地とあると八百年小
 及べども死収むる老々況や再建と企て老々然る小亞刺比亞
 人あつた後せるときかの像と破碎し九百匹の路神よ負せて
 自必不送るといふ
そは巨洞人のエウロンが海に沈むるといひ傳ふれどその説はよむが考へり
 歐邏巴洲の伝

この洲北へ氷海ありあり東へ亞細亞洲と烏落兒山及び小島
 東海よりつて疆と云南へ地中海亞弗利加列小島を海に亞大
 臘海と限るあの海と云はく北中南の三大部とせり其侯於て
 一は西南の海小向ふ方や暖氣とぞ其人種さぬぐりといふ人
 ども概する小身材長大くて髪赤く瞳ハ紺のまゝりその性伶俐
 あり天文地理の學も長ト又洲底小巧なるその屋礎とありて
 牆と一木とありて棟と云或ひハ六階七階不遠るささこに丈ある
 りのありその中不帝ふと稱するものあり獨逸都兒格魯
 西亞ありと云

寺漏生しろうといふは大河を東流すことありて其の西に湖ありて
 周園頗大なりその水之深のるに満溢してその中より魚鱉を
 生ずる人漁獵して生活とせん次で之深のるにその水乾涸
 して一滴と送るに其の縁牆して水穀と作るに實に不測と
 といふべし

佛蘭西ハ八十六國ありて首府を把理斯といふその人伶俐
 ありてよく百事を勉強せり獨逸の人の後小仏人の朋友と旅
 するも隣国といふをべうらむと是の侵し掠めらるることある
 りといふ其府内ハ大官廳ありその製造奇巧にして百幸

小にて城といふその樓上ハ國王騎馬の像あり黄金にて
 造るに重さは十貫目なりとぞ佛蘭西人ハ小映咭喇人と
 互に繁華と誇る映人その能と筆へていそく把理斯府ハ
 龍動府映咭喇の府より小き一なり戸數も後つて少し二之
 灌身居寡一にあり警域の救少しにあり救中人と餐
 食するところありみろりと佛人とは小對して龍動ハその地
 長きのこ把理斯の田ハ大なる小若く龍動ハ家數多し其
 家の三階ありて把理斯ハ六七層より寡きなり龍動の婦
 女の情慾多きを小子と養ひ多し龍動ハ其罪障深し

左不教仲人と食熟して穢悔する有りとの人とぞ
この穢悔は
 不教仲人あり自らと穢しく化す
穢しむ
 暎ふをき小カライス城と
暎ふ
 暎ふ所あり性者暎人不隔らる
その暎ふ
 高村邦人切齒して
切齒
 美カライス城と快後さるる
快後
 三月飲と絶獄不暇
絶獄
 かるるも厭むとあの後十七年ありて不後を暎咭喇と
暎咭喇
 の女王まこと是と懐て病て死不ありと死
死
 死にるが腹と割
腹
 て試むべし
試む
 かるるも心小カライス城の文字影り
文字影り
 とる人ありて五十年前那波礼那勃那拔爾的
那波礼那勃那拔爾的
那波礼那勃那拔爾的
哥而西加不

聰明伶俐の人
聰明伶俐
 小礼不家ト國王と然け共共和政治の長とあり
共和政治
 竟不返還の心と癸一自ら第一世帝と稱一歐邏巴の徳海と候
歐邏巴
 吞せんとん然まごも志と果さくして滅びたり
滅び
 盟してえの玉王位不復をあの那波礼那威勢度大のと死候不
那波礼那威勢度大
 魯西亞と伐んとりて大軍と率ひ彼不列の魯西亞と玉王
魯西亞
 怖まを軍と仰て是と我ひ竟不那彼後存の極勢と挫き
極勢
 不於て魯西亞の海内
魯西亞
 暎咭喇の本名と大貌利太泥亜とい人
大貌利太泥亜
 和蘭佛蘭西の死海不
和蘭佛蘭西
 あり二大島あり西多ると意而蘭土といひと暎咭喇といひ小
意而蘭土
暎咭喇



為^い匿^ね亞^あの大^{おほ}鳥^{とり}名^な
 三^{さん}丈^{じやう}ありと
 又^{また}大^{おほ}ありと
 又^{また}大^{おほ}ありと

地^ちと思^し哥^か齊^{せい}亞^あといりその熱^{ねつ}と嘆^{たん}暗^{あん}喇^らふ^ふと^と以^もて大^{おほ}嘆^{たん}暗^{あん}暗^{あん}
 喇^らふといり今^{いま}分^{ぶん}つて廿^{じふ}二^に列^{りつ}とある中^{なか}ふ^ふ廿^{じふ}二^に侯^{こう}とあるふ^ふ後^ごす
 府^ふと龍^{りゆう}動^{どう}とい極^{きく}めて整^{せい}整^{せい}ありて依^い員^{いん}あり地^ちふ^ふは^はま^まる^るい^いり^りと^とを
 來^ら人^{にん}民^{みん}輻^{ふく}輳^{じゆう}一^{いつ}家^か屋^{おく}稠^{ちゆう}密^{みつ}せるとりて井^いの^の名^な給^{たま}するふ^ふ是^こら^ら友^{とも}友^{とも}
 を^を死^し山^{さん}より水^{みづ}と引^ひくその路^ぢ路^ぢと十里^{じゆり}を每^{ごと}ふ^ふあり槽^{さう}と並^{なら}べて是^こと^とを
 との^とり^り府^ふ中^{ちゆう}ふ^ふ多^た摸^も斯^しとい大^{おほ}河^かあり奇^き巧^{かう}の橋^{はし}と架^かを長^{なが}さ百^{ひやく}半^{はん}丈^{じやう}
 幅^{あし}四^よ丈^{じやう}あり教^{きやう}ふ^ふ到^{たう}ま^まの橋^{はし}上^{の上}ふ^ふ教^{きやう}基^きの焼^や火^かと照^てして性^{じやう}来^{らい}ふ^ふ使^し
 了^りて大^{おほ}学^{がく}校^{がう}あり生^{せい}院^{いん}あり教^{きやう}万^{まん}弱^{じやく}とい^い好^{この}む^むて官^{くわん}方^{ほう}ふ^ふ賀^が易^いす其^{その}
 船^ね凡^{ぼん}二^に系^{けい}八^{はち}千^{せん}八^{はち}十^{じゆ}とぞ又^{また}國^{こく}と不^ふお^おす所^{ところ}の軍^{ぐん}艦^{かん}大^{おほ}旗^{はた}軍^{ぐん}門^{もん}と百^{ひやく}二十^{じふに}

門と備ふる所のりの八百十六艘とぞあるは海上の闘ひに於て
西洋法にこれに對するの志氣一とらん和蘭の軍艦など
海とあてゆきあつたの途にその船を伏せてあつたり一説に
この海上の各島を互とわつたると言ふは偽りといふと云らん

亞弗利加州の說

この五島の印度洋とびて亞細亞洲及び南の大海にあり
亞太臘海にあり此地中流にあり或は東南に二天と云ふ又十
六島に分つ氣作きて極熱一年に乾濕の二時節あるの地
人衆の名稱おとりのこと知らざるその乾く時の十月より三

月まで一熱の雨ありて此の連月霖雨と云らん此は洪
間とあり是と濕の氣といふ地は北に北にありて葉と極るに十
二月までよく熱まるとぞある地内は山岳及び大沙漠のありて夏は
穀不之あくは小男女と外邦へ賣渡すの類あり域中極多く
を海に航する船の貨物と棄る人固て高貴いよ多しと云ふ
あふ極る元來邦人教種あり今別て二種とするは本邦人と外邦人
種とありその外邦人種は或は亞細亞洲又ハ歐羅巴の島よりその人
種は同ト云ふ其の鼻平々々塌厚く眼小く毛髪ともふ
蹠と曲く此の地大洲の人と同ト云ふは都陋なるものなり

爲い匿ね亞や泥ねといふその塊かたまり極たぎめて大おほきなりまうまじき由よし土地ち炎えん熱ねつして
 土人どじんすべて膚かわ肌い焦やるなり土地ちの沙さ石せきと交まじりて歎なげきと聲こゑとを
 中な怪けい異いなるりのりの大おほきありその名なとアリシクスといふその異い垂た天てん
 の云いの如ごとく飛ひ揚やうするふむての日光にっかうと掩おほふた籠かご子こ所ところ留とどまるの如ごとく
 ひたる隣りんありその名なと丈あふたなることありまじき異いなる土つちあり土人
 ことごとく汚よごまうるりのと洗あらふふその功こう石せき煉れんふまじきことなるふは海うみ法ほう
 別べつふ併あせらしてその令れいふた従したがふ土人どじんと實じつて亞あ墨め利り加か測そく小せう後ご
 をその教きやう毎年まいねん十五じふご番ばんふ充みつ性せう古こより今いまふあり土人どじんと外がい邦ほうへ
 賣うりこそをりの大おほき約やく五ご千せん番ばんなるなりとぞまじき椰子やしの大おほ木きなる

その実じつの大おほき和わ朱しゆ子の如ごとくその初はつめ熟じやくするるとき内うちふありと會あひ
 むと糶あぶく土人どじん死して飲の料りやうとす又また酒しゆ酢そ大おほ酒しゆと製せいするその本ほん
 むて民たみ用もち利益りやくなりその内うち皮かわの箱はこ桶づつと作つくる外皮そとかわの繩なはとありと
 その糸いとと編あむて帆ふとすや根ねと算はきその核かく節せつの揃そろきを紙かみ小せう製せい
 一ひとその幹みきの鐵てつ艦かんの材まとん材ざいのどく法はふ叙じよの羽うと毎まい日にちとありて
 土人どじん此こゝの邊へ地ちを自みづからんせり
 工くわう鄂おつといふふ大おほ象しやうありその形かたち極たぎめて大おほきなり印度いんどと始はむ
 外がい邦ほうふありりのふはがれは優あまよ三さん倍ばいを有あふその牙きば大おほきなりりの
 月げつ方ほう二に百ひやく行ぎやうふありとをその地ちを隣りんふあり

一 把麻那府より日々小金板根并と称ぶ小疆馬百匹と及すと
 してその度大なると事あるべし然れどもこの地は作忽くは該病
 ひふ依まものの少なるを以て其秋終ふ吉日の市ありて死するもの大際
 二百餘人小及べりとのぞこの小ふカカダナとの小を由あり先年伊
 斯巴泥亞人兵卒と大擧して擧れせし小女子あり年十八勇敢を以
 て死すべしといふを以て海に於て婦人別強の風俗あり亞瑪鑽玉
 といふ小西人録してありし時婦人の極勇と云を懼るよりいへり
 伯西兒この地は古の自之の王あり然ると波爾杜瓦爾のふ小滅
 すと波爾杜玉より眾人と率集りてて小佐しむ遊と繁華の

地と云うて互市の盛なる一店の租税百金と減せんその港に小
 峯石ありてそを千奴より内小五大洲の高船を率とるは凡そ
 の明絹たる正畫圖由及びこの逆さ小は金坑あり穀一
 千とせしむる時一日小疆馬八百匹或ひは千匹と及すと
 府小送るを三分一と波爾杜瓦爾小貢ととらん先年佛蘭西
 偽帝マホレの礼は波爾杜瓦爾の太子親族と推してあふと
 避しは後嘆人の辱ふよりて一万五千の軍卒去人二万千人と
 率ひ大船小智しそ本西人論るとりてり候者小変化あり
 大概屋の極熱ありて秋の涼風あり去人の生活餘と損を

その地一年十五万補ふ減せんとぞ

巴太温一名墨瓦蘭玉の所領長人よりその地を

石尖くして逆あがく内城の林前叢屋して人烟もよこ

絶されい免ふ上陸するものより一年意太里亞のハキヘタといふ

ののあふ来るまで眼前ふ去人と絶つことゆるふ身材も

中寄みて獣の皮と身小纏ひを小流ちと扱えたり性

古より長人よといひ傳えたるは統と破る勿端亞細亞人

よりつるまは長人といへばけほど歐邏巴人より長人といへ

免ふ事ぬるものとす

北亞墨利加洲の統

墨是是可一名と新伊斯把泥亞といふその地産物極めて多

統中白銀と上より富るものいれおふ所の新車輪と白銀

めて作るあり

新墨是是可その地は共和政治州なり船中岳多しその

中間の膏腴の地ありて五穀と産するに多し去人好みて

海亀と味あふより毎月海亀と鱒南ぐの定市目と違ふとぞ

海人へ蛇皮と蛇を製する所とるんとり

共和政治の統長きおふ器をえい嘆ふより人種と違ふ

一由あり今に却て喚人のふまゝして貿易とて三十二員ふりてり

新貌利太泥亞の人民は種小ふして十二三葉の小児の如

一才智をく種く物と養ふるふ二十顆のふむとてその

救と忘る但一婦人多く富ふると榮とんその刑罪の人の

をて種くゆ辱をむると以て極刑とをせり有りて人

くは英園有りりゆて迫ると死の自ら己が體と判り

獨眠悟の一給ふタバコといふ酒あり先年伊斯把泥亞人

七十七

此不於て振めて異州とてりるるふタバコと号く 本邦

ふなる所の煙草乃ち是なり

新和蘭の地度大めて地球をふあつたといふと由を境故に

到るりの家くその精きと初るが下珠小海岸麓石多くして

舟船とてせ種くとるん此紀とてきもの珍産ゆありは是と省す

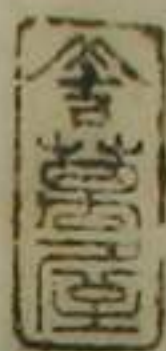
フリ子レイといふ島あり其地と新すれば友電流とるる其の

人相勇威強きあり又藤洲と勵とてその大人と飲食とるん

時己まづその小なる物とてさきと外部の害来るとして

懇考ふ切とつて友電流の名空とて風俗男女極

七十七



めて清潔と好む一日不休活すことあての念もまこと
 究めて清潔なり父母妻子の養ひ宏業の存と選り死
 圃園亭とあき苑とて絶ざしむその厚意大約如
 一とぞ是その大略あて清まると多し精しきと素むる
 人のその考不純て祝うべし

地球全圖畧説下終

